



学友会

国際ロータリー第2690地区米山奨学生学友会(鳥取・島根・岡山)



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

vol. 1

ロータリー米山奨学生学友会はRI2690地区に居住する
米山奨学生OB及び現役奨学生の同窓会です。

目 次

- 2—創刊号について……………梁 栄友
- 3—祝学友会創立……………森田 昭一郎
- 4—発刊によせて……………伊藤 文利
- 5—学友会の会報発行をお祝いして……………高木 新一
- 6—創刊号について……………柳 京子
- 7—米山奨学生を終えて今の私……………何 曉麗
- 8—米山奨学生を終えて今の私……………李 志嬉
- 9—米山奨学生を終えて今の私……………張 英恩
- 10—米山奨学金を終えて今の私……………胡 斌
- 11—米山奨学生を終えて今の私……………祝 洪波
- 12—あゆみ—ロータリーと私……………申 蓮花
- 13—ロータリー米山記念奨学生のOBになって……………羅 勝元
- 14—米山奨学生として選ばれてから感じている事……………モロムジャムツ・エンヘジャルガル
- 15—米山奨学生として選ばれてから感じている事……………金 智榮
- 16—活動写真
- 17—米山学友会 役員・監事名簿
- 18—会計
- 19—会則

創刊号について

国際ロータリー第2690地区米山奨学生学友会 会長

梁 栄友(韓国)

1997～1998年度 元世話クラブ:千葉印西RC

国際ロータリー第2690地区の米山奨学生学友会の会長になりまして、上半期が過ぎました。昨年3月11日、東日本大地震に襲われて、多くの悲惨な状況に置かれている人々がおります。東日本大地震から一年以上が経ちますが、未だ明瞭な未来を描けずにいる現状の中で、米山記念奨学会には国内各地の奨学生や学友会、海外の学友会（韓国、台湾、中国）では、募金の呼びかけを開始して義援金が届いたそうです。そのような環境中でも2011年度の奨学生は全国から827名が選ばれました。

さて、学友会は、学友（元米山奨学生）及び現役奨学生がロータリアンとの交流を深め、ロータリーの思想とする国際交流と親善、世界平和の創造と維持に貢献することが目的であります。米山学友会は、米山学友と奨学生によって組織され、現在、日本には30の学友会（34ロータリー地区）海外には韓国、台湾と中国の3つの学友会、合計33学友会があります。そして、今年の4月からタイにも創立されました。第2690地区の学友会は2005年11月に承認され、2012年2月18日（土）午前11時、倉吉シティホテルにおいて第7回総会を迎えられました。その総会の場に、11名の奨学生の終了式が行いました。現在、学友会に登録されている人数は92名であります。そして、4月29日は倉吉で「2012年度米山奨学生の新入生オリエンテーションが開催され、22名の新入生が与えられました。今年は人数が多くなった理由は、ご承知のように、今年からは専門学校や短期大学の学生にも奨学金を与える制度に変わりました結果でございます。第2690地区の現在の役員構成は会長1、副会長2、幹事2名、親睦委員長、社会委員長、広報委員長、総務委員長、監査2（一名は地区の米山記念奨学会委員長）となっております。

2011年12月3日には学友会と現役奨学生14名と高木新一ロータリアン（2011-12年度地区米山奨学会委員長）が参加されまして楽しい親睦の時が与えられました。そして、2012年5月27日には岡山ロイヤルホテルにおいて学友会9名と原武治ロータリアン（2012-13年度地区米山奨学会委員長）が参加されよい交わりが出来ました。大変嬉しいことは今年から学友会の会報を制作することを役員会で決め、IT時代におけるホームページの中で会報を入れる方法をガバナー事務所からご提案いただき、創刊号が誕生出来たことに感慨無量でございます。

この創刊号のためにご苦労されました、李志嬉 広告委員長を始め、役員の皆様、原稿を送って下さった方々、森田昭一郎ガバナー、ガバナー事務所の皆様にご場をお借りしまして、お礼申し上げます。今後の学友会の維持や発展にご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



祝学友会創立

2012～2013年度 RI2690地区ガバナー

森田 昭一郎

倉敷RC

ロータリー米山記念奨学事業は、全国のロータリー会員からの寄付金を財源として日本で学ぶ私費外国人留学生の為に奨学金を支給し、その学業生活を支援する国際奨学事業であります。そして将来、その人達が日本と世界とを結ぶ「掛け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する、その事がこの事業の使命となっています。

その歴史は50年以上前にさかのぼり、平和を愛し、青少年に手を差し伸べた“日本ロータリーの父”米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として1952年、東京ロータリークラブにおいて出発しました。やがてそれは日本全国のロータリークラブの共同事業として発展し、1967年に(財)ロータリー米山記念奨学会の設立となりました。この制度は他に類を見な

い日本ロータリー独自の全日本版の合同奉仕活動となっています。これこそまさにロータリーしか出来ない次の時代の人材育成の為に最も有効かつ実践的な活動としてさらに広く伝播されなければなりません。私達日本人が世界で活躍を約束された人達と接し、その絆を強め同一理念のもとに新しい歴史の中を共に歩いていく、その事がこの事業の目指すところであり私達と手をつないでいる奨学生の皆さんとの同一化であると信じています。

ロータリー米山記念奨学会のあゆみ

- 1952●東京RCが奨学事業の構想を立案
- 1953●「米山基金」の募金開始
- 1954●奨学生第1号のソムチャード氏がタイより来日
- 1957●全国組織とすべく、財団法人化を前提とした「ロータリー米山奨学委員会」を結成
- 1958●新組織初の奨学生8人を採用
- 1959●世話クラブ制度設置
- 1960●「ロータリー米山記念奨学会」と改称
- 1967●文部省から財団法人の許可を得て「財団法人ロータリー米山記念奨学会」設立
- 1971●カウンセラー制度設置
- 1972●米山功労者制度の設定
- 1978●特別寄付金への免税措置の認可を得る
- 1981●CY奨学金制度開始
- 1983●台湾米山学友会（扶輪米山会）正式発足
- 1985●国内初の米山学友会（関東）が誕生
- 1989●韓国米山学友会正式発足
 - 4月採用から元ロータリー所在国へ門戸を開く
- 1999●4月採用から全ての国・地域が対象となる
- 2001●日本政府から留学生交流功労団体として表彰される
- 2002●4月採用から指定校・大学推薦制度を全国で施行
- 2004●大阪国際大会に初ブース出展
 - RI理事会で米山記念奨学事業が賞賛を受ける
- 2005●4月採用から採用数・奨学金額を縮減
- 2006●制度改編・新制度発足「現地採用奨学金」、「地区奨励奨学金」
- 2007●日本全地区によるロータリーの多地区合同奉仕活動としての手続が完了
- 2008●ホームカミング制度がスタート
- 2009●中国米山学友会正式発足
- 2012●公益財団法人ロータリー米山記念奨学会となる
 - タイ米山学友会設立
 - タイ・バンコク国際大会にブース出展

発刊によせて

第2690地区直前ガバナー ロータリー米山記念奨学会 評議員 伊藤 文利

平成24年12月4日、倉吉RC例会に第2690地区の米山学友会会長梁栄友さんがゲストスピーカーとしてご出席され、久しぶりに再会し、名調子の卓話を拝聴する幸運に恵まれました。梁さんの米山に対する理解・情熱とリーダーシップを見る限り必ずや当地区の米山学友会は維持、発展し、そして軌道に乗せられるものと確信しました。

1953年から始まった日本最大の民間奨学事業である当会は現在まで延べにして約1万7千人の奨学生を支援し、その出身国は121の国と地域に及びます。中でも中国と韓国の学生が全奨学生の半数以上を占めています。

一時期日本のロータリー会員数は13万人を数えましたが、現在は9万人を切る現状で会員が抛出する金額もかなり減り、必然的に奨学生の数も多い年の毎年1000人規模から現在は700人と減員されています。我が2690地区には過去の統計はありませんが推測すれば、多分500名以上の奨学生が当地区内の諸大学で学び、彼らは各地のロータリークラブで、カウンセラー、クラブ員、地域住民等それぞれとそれなりの交流を持ったことが想像できます。このような背景を持ちながら我々日本のロータリアンは外国人留学生の支援・交流を通じて国を超えた信頼関係を築き、世界平和を願う「心」を育てるといふ壮大な事業創設の夢を持ち、熱い思いを込めて日夜努力しています。

一方で、嬉しいことに奨学期間終了後もロータリーとの絆を結び、学友同士の友情を深めたい、継続したいという機運が元奨学生達の間にも広まり、遂に日本に30、外国に4の計34米山学友会が誕生しました。

当地区米山学友会の歴史は浅いとは言え、先人の努力のおかげで立派に組織化された学友会は歴代会長の素晴らしいリーダーシップを得て見事に

運営されています。今年の3月私の主催した当地区の米山奨学生修了式には学友会総会も同時開催され、私も2年連続この式典、懇親会を体験させてもらいました。現、元奨学生、世話クラブ会長、カウンセラー、主任教授などなどが一同に集まり、立場や環境も違う人々が混じり合って米山奨学会という共通話題に花が咲き、本当に和やかな雰囲気、これぞ真の国際交流・親善だと確信しました。

この度、梁栄友会長のご尽力で当地区学友会報が発刊されました。組織が円滑に維持・発展するためにはやはり強力な指導者が必要です。梁さんは本当に優れた指導力の持ち主ですから今後の当地区学友会は益々発展するに違いありません。終りに学友皆様のご多幸を祈りながらご挨拶と致します。



学友会の会報発行をお祝いして

2011～2012年度 第2690地区米山記念奨学会委員会委員長

高木 新一

倉吉RC

このたび、梁会長のもと、学友会の会報が発行に至ったことに対して、梁会長をはじめ学友会の皆様にお祝申し上げます。

前期の米山記念奨学会委員長の私としても、こうして梁さんの強い思いが成果となって目に見える形で出来たことは、大変嬉しいことであります。

梁さんと初めてお会いしたのは2年前の12月でした。岡山の居酒屋で、確かラマンラキブ会長が母国に帰るということで梁さんが急遽会長を引き受けた直後でした。大変な時期にも関わらず、梁会長は、多くの米山学友・現役奨学生に声をかけ、16名の大親睦会となりました。これも梁会長の仁徳だと思いました。

学友会では、韓国から梁さんをはじめ、河さん、李さん、同じく李さん、張さんの5名、中国からは、祝さん、何さん、申さん、陳さんの4名、奨学生はカンボジアのワンさんをはじめ、総勢6名でした。今でも皆様ひとりひとりのお顔が浮かびます。自己紹介のあとの活発な意見交換を見て、私自身、米山記念奨学会に関与して良かったという気持ちが湧いてきました。

はじめは、私にとってこのような国際的な集まりは初めてでしたので、少し不安でした。しかし、皆さんの流暢な日本語で声をかけて頂いて、直ぐに打ち解けました。何よりも皆さんの目が輝いていたことに感動を覚えました。「志」をしっかりと持って学び、働いていることに敬意と尊敬の気持ちを抱きました。

米山記念奨学会の目的は、「勉学または研究のために来日し、我国の正規の学校または研究機関に在籍する外国人留学生に対して奨学金を支給し、彼らの留学を支援するとともに、ロータリーの理想とする、国際理解と親善に寄与することを

目的とする」です。2012年は奨学事業が立案されて、丸60年となります。

このような歴史のある事業が今後も継続できるように、我々ロータリアンは、「尽くす」ことが必要です。政治が出来ないことは民間レベルで出来るようにしなければいけません。このような時期だからこそ、お互いに友好関係を保つようにしましょう。

梁さんをはじめ、学友会の皆様のご活躍とご健勝を祈念し、お祝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。米山学友の益々のご活躍を祈念いたします。



創刊号について

韓国国際ロータリー第3650地区米山奨学生学友会 会長 柳 京子

このたびは国際日本ロータリー2690地区の米山記念奨学生学友会の会報発刊を心からお祝いのことばを申し上げます。私は韓国ロータリー米山記念奨学生学友会の第四代目の会長であり、韓国3650地区ニューソウルロータリークラブの会員でもある柳京子と申します。現在韓国では韓国ロータリー米山記念奨学生学友会の出身が約3800人に達しており、韓国ロータリー米山記念奨学生学友会の会員として相互の交流を深めております。

アメリカのポール・ハリスが初めてロータリークラブを設立した際、彼は奉仕よりもまず親睦のことを考えました。親睦はロータリーを支えてきた礎石です。それだけに、我々は、日本ロータリー米山記念奨学会の奨学生の出身として学友会の親睦の大切さを軽んじてはなりません。2690地区の米山記念奨学生学友会の皆様には立派な学友会の会員として、共に協力しつつ未来を作りあげ、世界理解及び平和のための各自の役割を担うべき責任と義務があると思います。

また、日本ロータリー米山記念奨学会の奨学生の出身であることは、はかり知れない恩典をもたらしました。我々は、かけがいのない親睦を享受し、他人のために奉仕するという個人的な生きがいを得ることができるのです。我々が協力し合うことで、一人一人にできる仕事に使命感をもって最善を尽くすのであれば、この力は世界を変化させることができると信じております。

私はカトリック信者ですがマザーテレサの献身的な愛の精神がロータリーの奉仕精神と通じることがあると思います。彼女のような献身的な奉仕精神を見習い、ロータリアンの職業を通じた奉仕精神を見守りながら、韓国学友会でも日韓関係の架け橋になれるような草の根の奉仕が実現できるようにつとめてまいりたいと思っております。さ

らに、今後様々な日韓交流に少しでも貢献できるように精進していきたいと思っております。

最後に 国際日本ロータリー2690地区の米山記念奨学生学友会の会報発刊をもう一度お祝いのことばを申し上げながら、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして祝辞のことばを終わりにしたいと思います。



米山奨学生を終えて、今の私

国際ロータリー第2690地区 米山奨学生学友会 幹事

何 曉麗(中国)

2008～2009年度

ロータリー関係者の皆さん、お元気ですか。

私は、今、岡山県のある自動車部品会社に勤めています。会社に入ってまもなくリーマンショックが起こり、数えてみると既に入社4年が過ぎました。

日本で仕事をするまでの5年間は、岡山大学で指導教官の江口先生をはじめとして先生方々や諸先輩の方々から色々な事を教えていただきました。しかし、その当時、私はただ留学生の立場から物事を見て、非現実的な態度を取っても社会的な責任を感じていませんでした。

しかし、現在、世界の景気が私に直接影響していると現実的に物事を見るようになり、社会的な責任を感じています。会社の臨時休業、現場の生産応援、無残業などが現実的に且つ敏感的に自分の生計にかかわっています。中小企業に勤めている我々社員は一人ひとりが一生懸命に働いても世界という巨大システムの中で活動しているので、結果が出ないこともしばしば。とは言え、社員の一人ひとりが実力を高めないと、生計と密接に関わっている会社は巨大システムに参加することさえできなくなるでしょう。

社会人になって、ネガティブな事ばかりだと思われるかも知れませんが、今こそ私たち一人ひとりが自分を見直すべき時期ではないかと、皆さんにお伝えしたくてなりません。

世界という巨大システムの中で活動している私たちは一人の力で世界を微動するどころか回されるばかりです。しかし、一人ひとりが古い殻を破り、会社(学校)に新しいエネルギーを、会社(学校)が会社に、社会が世界にどんどん新しいエネルギーを送り込むと世界のシステムがよい方向へ変われるのでは。

特に異文化に触れている、グローバル人材の多

くを占めている我々留学生は古い体制から脱殻しやすい素質を持っていると思います。

今後、グローバル人材は益々重要になるに違いありません。

ロータリー関係者の皆さんが各自の勉強に励み、実力を高め、岡山、アジア、世界の舞台で活躍でき、世界の景気をよい方向へ導く重要な一員になることを心から期待しています。



米山奨学生を終えて今の私

国際ロータリー第2690地区米山奨学生学友会 広報委員長

李 志嬉(韓国)

2010年～2011年 元世話クラブ:総社RC

日本に来て5年が経ちました。厳しい先生のとこ
ろで勉強させていただいたため、私の留学生活
は学校、家、学校、家という単純な生活でした。
ところで修士2年の時、米山奨学生として選ば
れ、総社ロータリークラブの皆さんと出会うこと
ができました。私の場合は同じ研究室の先輩でも
ある張英恩氏が元総社ロータリークラブの米山奨
学生であったため、クラブの皆さんに快く受け入
れていただきました。月1回の例会はもちろん、
行事がある時は必ず誘っていただき、いろんなど
ころへ連れて行っていただきました。今まで、単
純な留学生活をしていた私でしたが、米山奨学生
になってから多様な体験をすることができ、日本
の文化や歴史などにも触れる機会が多くなりました。
米山奨学生になっていなかったら私は今でも
日本について浅い知識や考え方を持っていたかも
知れません。この場を借りて、総社ロータリーク
ラブの皆さんに感謝の気持ちを申し上げます。

私は現在、岡山県立大学大学院保健福祉学科の
博士課程2年次であり、高齢者の健康関連ライ
フスタイルの発生メカニズムについて研究を行っ
ています。卒業まで後1年半が残っており、博士学
位を取ってからは韓国に帰って、現場の経験を積
み、最終的には私が日本で学んだ知識を韓国の社
会福祉を背負って行く学生たちに教える指導者に
なりたいと思っています。夢に向けて、高齢者の
健康増進研究に取り組んでいるところでありま
す。最近、日韓高齢者の健康関連ライフスタイル
を扱った研究は、韓国の3代新聞である東亜日報
にも紹介されました。私がここまで来られたの
は、金銭的な支援はもちろんですが、奨学生の期
間が終わった今でも私のことを気にしてくださる
総社ロータリークラブの皆さん、そして学友会の
皆さんの温かい応援のおかげだと思います。

米山奨学金は、奨学生の期間が終わっても学友
会に所属するようになり、引き続きロータリーと
の交流を行います。これは、他の奨学金制度には
ないロータリー米山奨学金の独特な制度であり、
非常に魅力的であると思います。学友会での活動
を通じて、人間関係が広がり、また学友会の皆さ
んとの絆ができます。今回の学友会の雑誌の発刊
をきっかけに、2690地区の学友会はより一層活性
化するでしょう。

最後になりますが、この学友会の雑誌の発刊に
協力をしていただいた2690地区のガバナー事務所
の関係者をはじめ、学友会の会長、そして役員会
の皆さんにも感謝の気持ちを伝えます。これから
も学友会の発展と和合のために頑張っていきたい
と思います。引き続き、よろしくお願い致します。



米山奨学生を終えて今の私

国際ロータリー第2690地区米山奨学生学友会 総務委員長

張 英恩(韓国)

2007年～2008年 元世話クラブ:総社RC

2007-2008年度米山奨学生として活動させていただいた張 英恩(チャン ヨンウン)と申します。私は、日本に2005年4月から現在(2012年9月)まで満8年間、岡山で生活しております。2011年3月に、岡山県立大学大学院保健福祉研究科博士後期課程を修了し、保健福祉学の博士学位を取得しました。主な専門領域は高齢者福祉分野で、博士後期課程の在学中では「要介護高齢者における家族介護者の介護コミットメントに関する研究」について論文をまとめました。

学位を取得した後は、これまで学んできた高齢者福祉に関する様々な知識を活かして少しでも社会に貢献できる人間になり、成長したい思いから日本で就職する結論に至りました。2011年4月から、指導教官から勧められたこともあり、「高齢者介護施設の現場で介護の技術や高齢者とその家族、介護職員に役立つ介護研究ができる」(株)両備ヘルシーケアに就職できました。高齢者福祉の実践的・学問的の両面を学べる良い環境の中で日々精進しております。

仕事の内容は、岡山市にある介護付有料老人ホーム施設で4年前に取得したホームヘルパー2級を活かして、要介護高齢者に自立支援のための日常生活を支える介護の仕事に勤めております。はじめての介護現場の仕事は予想より大変なこともあります。利用者様の喜びや感謝の言葉を沢山いただくと仕事にやりがいを感じます。そして、仕事の中では気配りや人間関係など新しい発見もあり、毎日を大切に過ごすことの素晴らしさを心に刻みながら頑張っていきたいと思っております。今までは学校で理論的な勉強はしてきましたが、実際に現場での体験は自分にとってとても大事な経験です。この経験をこれからの自分の研究活動にも参考にしていきます。また、2012年4月から

は会社の推薦もあって、倉敷にある大学で「介護等体験の基礎」という科目を非常勤講師として指導することになりました。

将来的には、日本と韓国の社会に貢献できる架け橋の役を目指して、社会人で経験したことをもとに大学で実践的な論文の研究・指導ができる教育者及び研究者としての道を歩みたいと考えております。宜しくお願い致します。



米山奨学金を終えて今の私

国際ロータリー第2690地区米山奨学生

フービン
胡 斌(中国)

2011～2012年度 元世話クラブ:鳥取中央RC

私は胡斌（フービン）と申します。2011年～2012年に米山奨学生に選ばれ、一年間で鳥取中央ロータリークラブに入らせて頂きました。今年の3月に私は鳥取大学を卒業して、4月から鳥取県倉吉市で働き始めました。

一年間ロータリーのご支援を頂くことで、日本の留学生活が問題なく、自分の研究に専念ができ、順調に卒業しました。もちろんそれだけではなく、今振り返ってみると、この一年間で自分がすごく成長したと強く感じました。

一年間ロータリークラブを通じて様々なイベントと国際交流活動に参加することで私は日本に対する理解が深まり、だんだん上手に日本の方々と付き合えるようになりました。本来私は人の前で話すのが好きですけれども、なかなか勇気がなく、人がたくさんいる時に緊張で話しが上手くできないです。しかし、ロータリークラブ毎月の例会を出席する時は必ず5分間を与えられ、皆さんの前で報告します。また、交流会、イベントの時も自分の感想なり、意見等を語るチャンスが多いので、そういうふうにならされて来た私は今人の前で話せるようになりました。また、例会を通じて、ロータリアンと共にロータリーの奉仕の精神を習い、ロータリアンの皆様は本当にいい模範になってくださいました。私もいつかロータリアンみたいな人になり、社会に貢献できるような人になると決めました。

勤めてから間もなく半年経つということは私が米山奨学生を終了してからもう半年が過ぎたということです。しかし、私は全然米山奨学会、ロータリークラブ、ロータリアンと離れた気がしないです。なぜかといいますと、いまだ私は、私のカウンセラー、ほかのロータリアンと付き合いいるからです。ロータリーのおかげで私たちが友達

になり、今も一緒に食事をしたり、どこかに遊びに行ったりします。私の職場まで訪ねて来られたロータリアンもいらっしゃいますが、頑張ってくださいと一言で励ましてくださって、私にとって本当に力になります。私たち外国人にとって日本で仕事をするのは難しいし、よくいろいろな問題にぶつかりますが、ロータリアンの支えこそ、私が頑張っていけるという自信があります。

米山奨学生であることは私にとって一生の誇りです。ロータリーに教えられた奉仕の精神を常に考え、社会に有益な人になろうと心から思います。これから学友会の活動にも積極的に参加し、ロータリーにかかわっていきたいです。



米山奨学生を終えて今の私

国際ロータリー第2690地区 米山奨学生学友会 幹事

祝 洪波(中国)

1991年～1992年度 元世話クラブ:岡山南RC

この度、当国際ロータリー第2690地区米山学友会
会報創刊号が発行され、大変喜ばしく存じます。また、当地区RCのホームページに掲載させて頂き、誠にありがとうございます。

私は平成3年度の米山奨学生で、世話クラブは岡山南RCでした。

来日後の24年間で最も忘れられないのは、当然米山奨学金生の1年間のことです。それはその後の人生の始まりです。米山奨学金のお陰様で、私は学業に専念できて念願の日本文学修士号取得という夢が叶いました。その時月一回の例会及び多くの活動イベントに参加させて頂き、多くのロータリアンの皆様方と出会った故に、親睦と奉仕というロータリーライフを支える二本の大きな柱について少しずつ理解できるようになりました。ここで改めて心より厚くお礼を申し上げる所存でございます。

日本・岡山での24年間を振り返ってみると、留学時代は勉強で忙しく、会社員の4年間は仕事が大変、いまはやり甲斐のある学校関係の仕事、とにかく今日まで成長してきた私は、当初の米山奨学金に恵まれなければ、今のような仕事や人生を楽しむことがなかろうと言っても過言でないわけです。とりわけ私のカウンセラーであった辻徳彦様には至れり尽くせりというほど大変お世話になっております。辻様は数年前に他界されましたが、そのご恩を一生忘れません。また、ロータリークラブの皆様をはじめとする多くの親切な方々にどんな言葉を用いても私の感謝の気持ちをよく表せないです。

わたしは現在学校法人加計学園国際交流局に勤めています。海外教育交流協定校との窓口として、留学生募集、海外入試や外国人訪日研修団及び本学に在籍している外国人研究員の入国手続き、在留期間中の生活上の指導、サポート等々の仕事をさせて頂いております。非常にやり甲斐のある仕事だ

と
思
い
ま
す。

大学のような学校教育は教員を中心に、学生の教育、科学研究等々を進める事業だと思います。私は事務職ですので、学生の教育については直接にはタッチしません。しかし、学校の一員としては自分なりの仕事に着実に取り組む中で、学園への奉仕心、学生への奉仕精神を常に心がけなければなりません。

外国人留学生が日本の大学で教育を受けられ、日本の事情を知り、将来彼らが親日派ではなくても、せめて知日派になれば非常に良いのではなかろうかと思います。私自身も日本へ留学に来ていなければ皆様への感謝の心は生まれていなかったかもしれせん。いまの留学生たちもそうでしょう。留学生たちが、私どもの大学を卒業し「この大学に入って良かった、ありがとう」と一言でも言えば、みんな嬉しいでしょう。わたしは普段この気持ちで留学生を対象に相談に乗ったり指導したりしています。

この24年間、わたしは悔いのない道を選んだどころか、非常に楽しい、有意義な道を選んで歩んできたと思います。もう既に若くはない年になってしまっすけれども、今後も私ども加計学園のため、精一杯頑張ると同時に、ひいてはより多くの中国人とより多くの日本人が相互理解と相互信頼関係を築くことができることに微力でありながら、寄与したいと思います。

「恩返し」という言葉は誰もが知っているわけですが、私は今後もその感謝の気持ちを持ちながら目に見える形で「恩返し」活動を継続していきたいと思っています。

末筆に、国際ロータリークラブのますますのご発展と皆様の更なるご活躍を祈念申し上げます。

あゆみーロータリーと私

国際ロータリー第2690地区 米山奨学生学友会親睦委員長

申 蓮花(中国)

2007～2009年度 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・産学官連携センター

人は人に愛されて、人に支えられて、人として成長していく。

毎年、十数万人に昇る外国人留学生在が日本に憧れ、日本で勉強をしている。その中で自分が米山奨学生として選ばれ、夢と現実の間はまた一歩近づいたような気がした。米山奨学生として選ばれた優越感と自分への自信と輝く栄光を満喫したが、支えてくださっているロータリークラブの皆さんの期待に応えられるのか不安にさらわれる時もあった。

2007-2009年、それは私の人生にとって意義深い二年間であり、向上心が溢れる力の源泉が掘られた年でもあった。私は中国の出身で、ロシアと北朝鮮との三カ国の国境にある小さな町で育った。本国で大学医学部を卒業してすぐに医療技術が発達している日本にきたものの、憧れの医学部の大学院にはなかなか入れず、日本語学校や専門学校を彷徨っていた。「石の上にも三年」ついに念願の大学院に入学できた。その時の喜びは未だに忘れられない。岡山大学医学部は日本でも屈指の大学で、私のような田舎からの小僧が入れたのは奇跡に近いものとして思われ、入学許可が下りた当時は感無量だった。夜を日に継いで研究に専念し、その努力と業績が認められ米山奨学生として選ばれ、その誇りがさらに学業成就に向けて拍車を掛けた。

残念なことに、予期せぬ延長戦が始まり、奨学生を卒業してからも苦戦の日々が続いた。暗闇の中、振り上げるといつも萎えそうになる心をかろうじて繋ぎとめる光—米山奨学生としての誇りが成功に導くようにそこに在った。しかし、私は夜明けに脅えていたのか、導は幽かに見え、どこか違う道へと踏み迷ってしまうのではないかと足をすくませた。焦りが止まらなかったが、奨学期間

終了後もカウンセラー先生に見守っていただき、支えてもらって、また、たくさんのロータリアンとの交流も絶えず、ロータリークラブの皆様の御蔭で、見失うこともなく自分自身の判断で歩き抜いた。夜明け前は常に夜よりも暗く、夜よりも寒いものだ。

2011年3月、念願の博士号を取得し、私は大学の研究室に残ることとなった。今、勤務歴1年半、夜明けともに新人のにおいは消えて行くが、研究生活が華を咲かせるよう拍車をかけている。それは明るい未来が向こうで待っているから。

追伸：岡山南ロータリー地域社会共同隊（RCC）のメンバーとして2007年からボランティア活動をしています。ロータリー地域社会共同隊はロータリークラブが提唱するもので地域の住民のニーズに合わせて活動し、奉仕をする自主自助組織であり、日本のみならず、世界中で何百もの共同隊がロータリーのスポンサーを受けて活動しています。岡山南RCCは岡山南ロータリークラブのスポンサーを受けているため、岡山南ロータリークラブとの交流も多いです。岡山で暮らしている皆さん、一緒に活動しませんか？興味のある方、是非ご連絡ください。



ロータリー米山記念奨学生のOBになって

国際ロータリー第2690地区米山奨学生学友会 幹事

羅 勝元(韓国)

2005年～2007年度 元世話クラブ:岡山南RC

私は修士課程の2年間(2005年-2007年)、ロータリー米山記念奨学生としてご支援をいただきました。当時、奨学生として月1回の例会、各種行事の対応など経験したことのないプレッシャーを感じていました。しかし、カウンセラー、副カウンセラー、また多くのロータリアンから見守られ、無事奨学生を終了することができました。

現在、千葉県銚子市に位置している千葉科学大学、国際交流室に在職しています。仕事柄からして、世界と日本の国際交流に関するさまざまなサポートを行っていますが、奨学生として学ばせていただいたことは、社会人になった今でも大きく役立っています。社会の多様な分野で活躍されるロータリアンとのコミュニケーションを通じて、異文化理解、思いやり、日本社会のマナー、奉仕の精神など国際人として求められる素養を身に付けることができました。また、留学生の奨学金申請に関する指導を行っていて、ロータリー米山記念奨学金もその対象の一つです。OBという立場もあって、ついつい気合が入って熱くなってしまう場合もありますが、奨学生に選考されることの重みを十分理解してもらうためには、止むを得ないことと思います。個人的な意見ではありますが、奨学生を目指す留学生にわかってもらいたいことは、奨学金という経済的支援だけでなく、将来の自分を大きく成長させることのできる二度とないチャンスであることです。実際、奨学生OBの多くの方が、母国や日本、世界各地で各々の分野で大きく活躍されています。

最後に、奨学生時代に大変お世話になったカウンセラー、副カウンセラー、岡山南ロータリークラブの方々にこの場を借りてお礼を申し上げるとともに、これからRI2690地区ロータリー米山記念奨学生学友会の幹事として恩返しをしていくこと

を約束します。

Ps.岡山に行く機会がありましたら、奨学生時代にお世話になったカウンセラー、副カウンセラー、ロータリアンの方々に会いしたいと思っています。



米山奨学生として選ばれてから感じている事

国際ロータリー第2690地区米山奨学生

モロムジャムツ・エンヘジャルガル(モンゴル)

2012年～2013年度 世話クラブ:鳥取中央RC

私の名前はモロムジャムツ・エンヘジャルガルと申します。エギと短くして呼ばれています。現在、鳥取大学地域学研究科：修士課程二年生です。地域教育専攻を目指して勉強しております。

留学生は、勉強も含め日本の文化、習慣も沢山経験しています。例えば、日本の方の家にホームステイをした時のご馳走です。モンゴルで、肉と小麦粉を中心に食べていた私にとって日本の食生活はまるで別世界です。もちろん今でも食べられないものがありますが、「食わず嫌い」という言葉があるように日本にいる間はなるべく日本産の果物や野菜、特に海草、魚などを太ってもかまわないので沢山食べようと思っています。お米もまた美味しいです。毎年田植えと稲刈りにもチャレンジしています。モンゴルではお米が作れないため、美味しいお米はなかなか食べられません。帰国したらこういういろいろな経験を通して日本を紹介したいと思います。

鳥取に来てから自転車に乗れるようになった私は大学への通学はしばらく大変でした。大学から少し離れている姉の家に同居していたため練習するしかありませんでした。しかし、ある日のこと、自転車から落ちて左足首を骨折してしまい四日間入院しました。自分の家族の事で忙しかった姉にまた迷惑をかけてしまいました。悪いな…と思いつつ普段から大変お世話になっている皆さんにいつか恩返しできるよう頑張っています。

実は、私は今年四月から大学院の二年生になりロータリー米山奨学金のお蔭で、授業料をはじめ心配することなく、上記のような様々な経験を回想しながら好きなことである英語と日本語の勉強を優先に出来て充実した毎日を過ごしております。

ロータリー米山奨学会の名誉が高いため先生方

と友達に「すごいな…」と賞賛された時恐縮していましたが、せっかく奨学金をいただいているので皆さんの期待にしっかりと応えてあげたいと思っています。

毎月、例会に参加させていただき立派な方々と食事する機会が人間関係が広がり、普段から谷岡さんの立派な家族にお世話になっております。年齢としては私の祖父と祖母に近いですが私の父と母のようなお二人が大好きです。一緒に食事したり、釣りもしたりいつも私の希望の通りに甘えさせていただいていることについてモンゴルの父と母に話をして大変楽しいです。



米山奨学生として選ばれてから感じている事

国際ロータリー第2690地区米山奨学生

金 智榮(韓国)

2012~2013年度 世話クラブ:新見RC

2011年、吉備国際大学、社会学部、ビジネスコミュニケーション学科へ編入して以来、日本で何か新しい活動をしてみたいとずっと思っていました。そんな、ある日。

カンボジアから来た友達に吉備国際大学のローターアクトクラブに加入することを進められました。周りの人たちに何かと助けてもらって来た私は、私自身、人の為に何か出来る私になりたいと何時も思っていました。しかし、留学生の身分では学業や生計維持のためのアルバイトで手一杯で、ローターアクトの活動まで並行して行うのはどうしても無理がありました。活動したくてもできないという状況が日々続き、もどかしい気持ちでいっぱいでした。その時、米山記念奨学金のことを知り、これなら今の状況が解決できると思って、挑戦してみることを決めたのです。切実な思いが届いたのか、奨学生として採用していただくことができました。

翌年の3月から新見ロータリークラブにお世話になり、今まで月に一回、例会に参加させていただいています。ロータリークラブの方々の卓話を聴かせていただいたり、お互いに話し合ったりすることで、参加させていただく度に成長している自分を感じています。私も毎回、簡単なスピーチをさせていただいています。最初は緊張して早口になってしまい、10分ほどの予定だったのが5分で終わってしまいました。今は前よりはずっと良くなっていると(自分では!) 固く信じています。少なくとも、これで、会社の面接は大丈夫です。多分...

米山奨学生になってからは生活に余裕ができて周りを見る視野が広がった気がします。ローターアクトとして活動できる時間が増えただけではなく、卒業論文の研究にもより一層集中できる

ようになりました。また、地域の稲刈りの手伝いに行ったり、子供サッカー教室の手伝いに行ったりと、様々な活動ができて、その全てが思い出になりました。新見ロータリークラブの皆さんからも食事会にご招待いただいて、大好きで美味しい日本料理もたくさんいただいています。

このように様々な経験ができたのは、米山奨学生であるからだと思います。米山奨学生としてロータリークラブの皆様方から育てていただいたことは、一生忘れられないと思います。残りの米山奨学生としての時間を満喫したいと思います。韓国に帰っても、日本で戴いた沢山の愛情や感謝の気持ちを忘れず、米山奨学生として恥ずかしくない行動を心がけて何事にも全力を尽くしていきたいと思っています。



活動写真



(1) 会長 (1名)

・梁 榮 友 (韓国)〔1997—1998年度〕

(2) 副会長 (2名)

・河 智 弘 (韓国)〔2000—2001年度〕

・陳 新 妍 (中国)〔2009—2011年度〕

(3) 幹事 (2名)

・羅 勝 元 (韓国)〔2005—2007年度〕

・何 曉 麗 (中国)〔2008—2009年度〕

(4) 委員長 (4名)

親睦委員長 ・申 蓮 花 (中国)〔2007—2009年度〕

社会委員長 ・李 多 暎 (韓国)〔2010—2011年度〕

広報委員長 ・李 志 嬉 (韓国)〔2010—2011年度〕

総務委員長 ・張 英 恩 (韓国)〔2007—2009年度〕

(5) 監事 (2名)

・祝 洪 波 (中国)〔1991—1992年度〕

・原 武 治 (倉敷RC)〔2012—13年度 地区米山記念奨学会委員会委員長〕

2011年度 学友会決算報告書

第2690地区 米山学友会

期間：2011年7月1日～2012年6月30日

(単位：円)

[収入の部]

日付	項目	金額	
2011年12月22日	奨学会活動補助費①	27,000円	
6月30日	奨学会活動補助費②	27,000円	
合	計	54,000円	… A


[支出の部]


日付	活動内容	金額	摘要	領収書 No.
2011年12月 3日	交流会・忘年会	27,000円	飲食費	1
2012年 5月27日	春の親睦会	20,000円	飲食費	2
6月30日	補助金振込手数料	630円	②地区口座より	
		47,630円	… B	


収支差額 (A - B)

6,370 円

以上の通り報告いたします。

監事 (署名) 高木新一 

監事 (署名) 何曉麗 

会長 (署名) 梁榮友 

会則

新

(財) ロータリー米山記念奨学会 学友会 (第2690地区) 会則

第一章 総則

- 第1条 この会は米山奨学生学友会 (第2690地区) という。
第2条 この会は連絡先をガバナー事務所におく。

第二章 目的および活動

- 第3条 この会は会員相互の親睦を深め、ロータリー米山記念奨学会の事業の発展を支援することを目的とする。
第4条 この会は前条の目的を達成するために、次の活動を行う。
1. 総会の開催
2. 親睦会の開催
3. その他本会の趣旨に沿う活動

第三章 会員

- 第5条 この会の会員は次のとおりとする。
正会員
第6条 正会員は元米山奨学生と現役奨学生の有志とする。
第7条 本会の趣旨に反する会員に対して、本役員決定を経て、会員資格を取り消すことができる。

第四章 組織

- 第8条 この会は次の役員をおく
1. 役員3名以上10名以下 (うち会長、副会長を含む)
2. 監事2名 (うちロータリアンを1名含む)
第9条 役員および監事は総会において正会員が承認する。
第10条 会長、役員および監事の任期は1年とする。(再選は3期まで)
第11条 会長はこの会を代表し、会務を総括する。
会長は総会、役員会の議長となる。
2. 副会長は2名とし、会長を補佐し、会長が事故のあるときはその職務を代行する。
3. 幹事は2名とし、本会の行政・事務・会計などを総括する。
4. 委員長は4名とし、各担当業務を総括する。
①親睦委員長は、本会の親睦や交流に関する事項を総括する。
②社会委員長は、社会奉仕や活動に関する事項を総括する。
③広報委員長は、学友会の広報・広告・会報に関する事項を総括する。
④総務委員長は、総会および役員会等に関する事項を総括する。

第五章 会議

- 第12条 定時総会は少なくとも毎年1回開催し、臨時総会は役員会が必要と認めた時に開催する。
第13条 役員会の議事は理事現在数の3分の2以上出席し、その出席役員数の過半数でこれを決定し、可否同数であるときは採決することができる。

第六章 会計

- 第14条 この会の経費は、ロータリー米山記念奨学会からの補助金およびその他の収入で支弁する。
第15条 収支決算書は監事 (うち1名はロータリアン) の意見をつけて、役員会の承認を受け、総会に提出し承認を受ける。

第七章 補足

- 第16条 この会則の施行についての細則ならびに補充削除は、役員会および総会の決議を持って定める。
第17条 本会の事業年度は、7月1日より翌年6月末日までとする。

附則

この会則は、2005年11月13日から施行する。

この会則は、2012年2月18日から施行する。

旧

(財) ロータリー米山記念奨学会 学友会 (第2690地区) 会則

第一章 総則

- 第1条 この会は米山奨学生学友会 (第2690地区) という。
第2条 この会は連絡先をガバナー事務所におく。

第二章 目的および活動

- 第3条 この会は会員相互の親睦を深め、ロータリー米山記念奨学会の事業の発展を支援することを目的とする。
第4条 この会は前条の目的を達成するために、次の活動を行う。
1. 総会の開催
2. 親睦会の開催
3. その他本会の趣旨に沿う活動

第三章 会員

- 第5条 この会の会員は次のとおりとする。
正会員
第6条 正会員は元米山奨学生と現役奨学生の有志とする。
第7条 本会の趣旨に反する会員に対して、本役員会の決定を経て、会員資格を取り消すことができる。

第四章 組織

- 第8条 この会は次の役員をおく
1. 役員3名以上10名以下 (うち会長、副会長を含む)
2. 監事3名 (うちロータリアンを1名含む)
第9条 役員および監事は総会において正会員が承認する。
第10条 会長、役員および監事の任期は1年とする。
第11条 会長はこの会を代表し、会務を総括する。
会長は総会、役員会の議長となる。

第五章 会議

- 第12条 定時総会は少なくとも毎年1回開催し、臨時総会は役員会が必要と認めた時に開催する。
第13条 役員会の議事は理事現在数の3分の2以上出席し、その出席役員の過半数でこれを決定し、可否同数であるときは採決することができる。

第六章 会計

- 第14条 この会の経費は、ロータリー米山記念奨学会からの補助金およびその他の収入で支弁する。
第15条 収支決算書は監事 (うち1名はロータリアン) の意見をつけて、役員会の承認を受け、総会に提出し承認を受ける。

第七章 補足

- 第16条 この定款の施行についての細則ならびに補充削除は、役員会および総会の決議を持って定める。
第17条 本会の事業年度は、7月1日より翌年6月末日までとする。

附則

この会則は、2005年11月13日から施行する。